

ご挨拶

城東支部長 野中 健司

城東支部の皆様いかがお過ごしでしょうか。コロナ感染症が確認されてから3年になろうとしています。私たちの日常は大きく変わり、校友会活動も自粛を余儀なくされてきました。今後、この3年間自粛してきた支部活動をどのようにしたら開催できるのか、皆で知恵を出し合い模索していきたいと思えます。



さて、校友会は2015年に代理収納が停止となり、会費納入者も減少の一途を辿っております。それにより校友会の財務は危機的な状況となっております。校友会の運営資金は基本財産の取り崩しにより賄われているのが現状です。前号では7~8年で破綻するとお伝えしましたが、さらに短く3~4年で破綻するであろうとの指摘もあります。大学側との代理収納復活の交渉もまだ具体化には相当な時間がかかる見通しで、校友会の在り方をも含めた抜本的な見直しを早急に進める必要があるものと思えます。

最近、組織の在り方について思うことがあります。どんな組織でも言えることですが、自分と違う主張をする者や組織の方針に異論を述べる者に対し批判ばかりする奴とレッテルを貼り、分断をするような組織運営であってはならないということです。

組織運営するうえで大切なことは、異論にも耳を傾け議論を重ねたうえで合意点を見つけ出していくことです。組織運営していくなかで間違いがあったとき、それを認めず覆い隠そうとすると後々、取り返しがつかない状態になりかねません。間違いを認め改めることでそこに信頼関係が生まれ、より良い組織が構築されていくものと信じています。

130年の歴史ある校友会を存続させるために、今何をなすべきか、皆さんとともに考えていきたいと思えます。

〈特別寄稿〉

支部活動報告

東洋大学校友会

前千葉支部長 前校友会副会長

川上 三郎



「城東 Now」の貴重な紙面にごあいさつさせていただきますことを嬉しく思います。千葉県支部長から校友会副会長時代まで、城東支部の皆様にはご協力、ご支援を賜りまして感謝の限りです。学祖井上円了先生の教えのもとに集う同窓生、校友会はその拠り所です。

昭和32年の入学当初の大講堂には、グズグズ軋む、動かすことのできないアップライトのピアノがありました。音楽仲間のカンパを基に大学の支援もいただき、素晴らしいグランドピアノが登場した時の感動は忘れることができません。ピアノは東洋大学音楽団体の芽生えのきっかけとなりました。小生の大学生活は、東洋大学混声合唱団の草創期から部活動が中心にあり、仲間とのつながりの大切さを痛感してまいりました。

楽しく集う、それが願いでした。城東支部の皆様を中心に近隣支部との集いを重ねました。特に、小生の健康道場である畑での、コロナ禍前までの千葉県支部主催の芋掘りの集いは楽しかったです。午前の早い時間に芋掘りをし、午後は会食とおしゃべり。最初はレストランでの会食でしたが、やがて拙宅の庭でのバーベキューとなり、さらに楽しい集いとなりました。しかし、胸の痛むこともありました。平成27年10月のある日、芋掘りの日時を決める電話かと受ければ南方さん逝去の知らせ。校友会常任委員会時代、当時城南支部長であった南方真理さんとの話し合いから始まった芋掘りの集いです。コロナで、中断されるまでは、何があっても芋掘り優先と決めて初志を貫いてきたことが自慢でした。楽しい集いの再開が待ち遠しいです。

城東 TOPICS |

令和4年 2022年の城東支部

【活動報告】 役員会、支部総会は曳舟文化センターにて開催 4月8日(金) 令和4年度第1回役員会

- ① 活動報告：年末よりLINEを利用しての連絡開始
- ② 代議員選挙：代議員は各支部単位での選挙。城東は野中支部長、浅窪壮一顧問、武田勇蔵顧問、中川義隆(林家時蔵)副支部長、持田一郎副支部長、金杉会計の6人が無投票で選出された
- ③ 理事改選：関東ブロック城東支部の理事として野中支部長を推薦
- ④ 理事会報告：校友会では引き続き財源が課題。

赤字額4,500万円が計上される現状で、コンサルタント料、職員の給与の支出割合はバランスを欠いているように見えるとして、活動計画の全面的な再考を求める意見が出た。

6月25日(日) 令和4年度城東支部の集い(総会)

コロナ禍に配慮して、役員のみ出席の対面形式、懇親会なしで行った。

- ① 令和3年度の活動及び会計報告
 - ② 令和4年度の活動計画及び予算案
 - ③ 理事会及び代議員会報告
 - ④ その他
- 活動計画案は一日も早い通常の活動再開への期待を込めて提案された。

デフリンピックが東京で！

佐々木 勇一 (H3 年経営 2 部卒)

本年 9 月、2025 年デフリンピックの開催地が東京に決定しました。

デフリンピックとは 4 年に 1 度世界規模で行われる聴覚障がい者のための総合スポーツ競技大会です。私が住む江戸川区では、都内初となる「江戸川区手話言語条例」を 2018 年 4 月に施行しています。私も区議会議員として条例の制定に尽力させて頂きました。



先立つこと 2014 年に江戸川ろう者協会の方から、「江戸川区に手話言語条例を制定するため勉強会に来て下さい！」とお招き頂き、勉強や議論を重ねる中で、手話は言語であることや、日本手話と日本語手話の違い、手話や口話の歴史などを教えて頂きました。私が知らないことばかりでした。また、手話が分からない私が、手話で会話している皆さんの中いることで、マイノリティとしての思いを実感いたしました。

以来、ろう者を初めとする聴覚障がいの皆様と少しでも心を通わせたいと、私自身も NHK の関連番組等で手話に触れるようになりました。と言っても今でも挨拶くらいしかできませんが。議会で訴えを重ね、ついに実現した日、関係した皆様と万歳をしたことが忘れられません。デフリンピック東京大会の大成功を願うとともに今から楽しみにしています。

コロナ禍の中での孫支援で思うこと

野中 和代 (H14 年院社会卒)

可愛い孫は 3 歳になりました。娘は 1 年 6 ヶ月の育児休暇をとり、保育園の栄養士として今までの職場に復帰しましたが、コロナ禍でワクチン接種の第一回目が始まったばかりでしたので感染者が拡がり、娘の保育園にも感染者が出てしまいました。そこで、近くいる祖父母が孫を見ることになり、さあ大変。私は後期高齢者ですので、怪我をしないように注意し食事や排泄の世話をし、遊びも活発になり大変です。可愛い孫の為に一生懸命でしたが、後で疲労困憊します。それでも、孫の成長発達を客観的に見られ、とても嬉しい気持ちになって疲労も飛んで行きます。



私は、産後 6 週間で実母に娘を預けて働きました。小児科の看護師長でしたので、入院中の患児の成長発達は見ることは出来ても、娘の成長発達の瞬間は見られませんでした。実母は娘が 16 歳まで健在で、76 歳で永眠しました。今でも感謝しています。私の寿命は、孫が 16 歳になるまで続くでしょうか。

今の世の中様々こと沢山があります。災害国日本です。又コロナ感染やウクライナの悲劇を見ていると、人の命の尊さを痛感します。様々な不安材料が沢山ありますが、少しでも世の中が平和になり、孫の世代には住みやすい環境と。良い事が継続していける様になって欲しいと願ってやみません。

城東 TOPICS 2

10 月 17 日 (月) 令和 4 年度第 2 回役員会

- ① 総会以後の活動報告：甫水会、埼玉東支部、茨城県支部などでは対面による総会・懇親会が実施され野中支部長、浅窪顧問、米津副支部長らが招待を受けて出席
- ② 城東今後の活動：対面活動開始の検討(当面見合わせる)。城東 NOW 発行
- ③ 理事会報告：校友会のコンサル依存の現状が地方支部にも認識されつつある。校友会監事選挙での違反疑惑に対し検証委員会を設置し検証中。ホームカミングデー(10月30日)時に開催された全国校友会物産展に協力。

12 月 13 日 (火) 令和 4 年度第 3 回役員会開催予定

●年末年始行事のお知らせ

恒例行事の「年忘れかつしか白山会」「城東支部新春の集い」は、昨今の状況を踏まえ本年度も見送ることとなりました。



- 林家時蔵師匠 (中川義隆さん)
◎12月6日(火) 深川落語倶楽部
於：深川江戸資料館 小劇場
◎「林家時蔵独演会」令和 5 年予定
1月23日(月)、3月17日(金)
5月26日(金)、7月28日(金)
9月29日(金)、11月17日(金)
各日 18:30 開演
於：お江戸両国亭 (墨田区両国)
問合せ：03-3633-7961



オフィシャルサイト更新中



- 今井 杏羽子さん
第 28 回 がん征圧
チャリティーコンサート
令和 5 年 5 月 14 日(日)16 時開演
於：四谷区民ホール
ゲスト菅原洋一さん
問合せ・申し込み
090-9840-8461



コンサートはもうやめようかと迷った挙句の開催。ファンの後押しを受けて決心されたそうです

重蔵の絆

松丸 重蔵 (S40年経済卒)



小生が子どもの頃、歌謡曲に憧れて、暇さえあればラジオから流れる歌謡曲に耳を傾けていました。その頃は2～3回聴けばフルコーラスを覚え、唄っていたのでした。

中学校卒業時の「謝恩会」で、同窓生の一人がギターを片手に当時のヒット曲「別れの一本杉」を弾き語りされました。勉強とスポーツに明け暮れていた小生は、そのギターの音色、フィードバックの和みに度肝を抜かれ、まさに吃驚仰天となりました。見事な「音さばき」で、生涯の趣味はこれだと思わしめたのです。早速、有り金をはたいてギターを手に入れ、有頂天の喜びで、すぐギター教室に入り一意専心の思いで練習に取り組みました。

大学では軽音楽部に入り、好きだった「カントリー・バンド」を立ち上げました。そこで全国のカントリー好きな仲間を知る機会に恵まれました。ダンス・パーティーや各種の部会での演奏会などを重ね、思い出深い大学音楽生活でした。

現在も、日本作曲家協会の会務役員、「JASRAC」会員、「かつしかFM」のパーソナリティ、カラオケ教室の指導など音楽活動を続けています。この夏は葛飾区からの依頼により、盆踊り「令和かつしか音頭」を作曲し、多くの区民のステップ・アップとなっています。

人生を彩るヒント 湯沢 徹 (H9年福祉卒)

相模湖へバーベキューに行った時のことです。以前は保育園へいくのにも「イヤだイヤだ」と大泣きしていた我が子が、自発的に食材を運んでくれたり、困っている人に手を差し出せるようになっていました。そんな姿を見ながら「将来どんな風になるんだろう…。素直な優しいコになってくれれば…」と思いを巡らせていた時、隣のテーブルでじゃれ合っていた子供たちが誤って我が子にぶつかってしまいました。すぐさま「ごめんね」と謝ってくれた子供たちに対して、我が子は半泣きながら「いいよ」と優しく許し、やがて、子供たちも遊びの輪に招いてくれました。

このシーンに、人生を豊かにする『ヒント』が垣間見ました。例えば裏切りに遭った時に、しばらくしてから自分をその相手に置き換えて考えてみると「あの時自分も悪かったのかもなあ。自分だって同じことしたかも」と相手を理解する感情が芽生え、意外な真実が見えてきたりするものです。時の流れが心を落ち着かせるとともに、心の瞳を浄化させ、あらゆる物を優しく映してくれるのでしょう。人間は人と人のふれあいによって助けられ、人生に彩りを与えてもらっているのだという事実を忘れてはならないでしょう。つまり、相手を敬い、受け入れ、感謝するという『謙虚さ』こそが

人生を豊かなものへと導く『ヒント』なのだ、子供から教えられた良い一日でした。



「先生」と呼ばれて

中澤 史夫 (H1年法卒)



中学生の時から家庭教師が東洋大学卒業で、私も同じ大学で学びたいと思い受験しました。昼間はアルバイトをしながら、夜学ぶという大学生活を送りました。

卒業後は、実家の眼鏡店を継ぐため眼鏡専門学校に通い、眼鏡店に25年間勤める中、お話を頂き、現在台東区議会議員として2期働かせて頂いております。

最近、議員を先生と呼ばないとの話題がありましたが、私が勤めていた眼鏡店の社長も、政治家の方々とは親しくされている一方で、「世の中で先生と呼んで良いのは、学校の先生と、お医者さんだけ」と常々話していました。

私も、やはり先生と呼ばれることがあります。その度に「先生ではないですから」と言って訂正しますが、呼ばれ続けると、その言葉に慣れてしまうこともあります。それに気づくと社長の言葉を思い出し、そうではないと自分に言い聞かせています。

これからも、「大衆とともに」との立党精神のもと、自分の足元を自覚しながら、決して浮き足出さず、区民のため、東洋大学出身の誇りを持ち、頑張ります。

SNSでも繋がる母校の絆

山口 順子 (S55年社会卒)



卒業して40年余り、愛校心は在学時よりも今の方が強くなったように感じています。

私はスポーツ観戦が趣味で、とりわけ母校の駅伝を30年以上応援しています。長く箱根駅伝花の2区の沿道に住んでいたことから、お正月はリアル応援、中継所巡りをしていました。今では誰もが知る強豪校になり大変嬉しく思います。

そんな私は、今から8年前に同級生を無理矢理誘ってフェイスブックで「箱根駅伝 東洋大学を応援しよう!」というコミュニティを立ち上げました。母校を応援したいという気持ちを形にするために始めましたが、今では2100名以上の方に参加いただいています。同窓生だけでなく、「東洋の走りが好き、姿勢が好き」と言ってくださる方も多く、楽しい交流ができています。昨今は陸上に限らず相撲、水泳、ラグビー、野球など東洋スポーツに関する情報共有もしています。個人情報保護には気をつけています。

本来なら校友会などで実際に会ってお付き合いしたいところですが、私は校友会支部からイベントのご案内をいただいても、顔見知りの方がいないことから参加をしていませんでした。しかし、今はSNSで繋がるのが可能です。これをきっかけにリアルな交流に繋げていく可能性も追求していきたいと思っています。たくさんの良き思い出が詰まった東洋大学をこれからも応援します。

〔会員の近況〕

◎ 射手克己さん（S47年応用化学卒）

脳卒中中で倒れてからほぼ1年。リハビリの甲斐あって今では郷里の飯田に毎週帰って畑の草むしりをしたりできるほど回復しているという。卒中中で倒れる人の約3分の1は死に至り、3分の1は寝たきりに、残りの3分の1は社会復帰するという統計があるそうだが、今の状況で家族をはじめ周囲の方々には感謝しているという。

◎ 内山吉子さん（S60年国文卒）

誰もが知る書道家。米寿を記念して個展を計画し、案内状まで制作したところでコロナに阻まれた。コロナがやや収束し、延期された個展の準備を再開したとたんに転んで肩の骨を折る大怪我をされた。その怪我がよくなったところに今度は尻もちをついて腰を痛め、今またリハビリ生活を続けている。それでも個展の開催はあきらめず、来年秋ごろあるいは再来年の春ごろにはと前を向いている。この姿勢はお手本にすべきものだ。

◎ 緒方 剛さん（S53年法律卒）

明美さん（S52年法律卒）ご夫妻

とても仲の良いご夫婦だ。剛さんは平成30年に交通事故で頸椎を損傷する大怪我をした。持ち前の頑張り屋さん精神で乗り越えたが、その間のリハビリは相当きついものがあつたと聞く。城東支部の会計として頼りがいある存在だった。明美さんは宅建の有資格者で地元の企業に勤めていた。最近退職したが、その安ど感からか、体調を崩して深刻な状態にあつた。今は全く元気そうに見えるが、まだ通院しているという。体が資本という言葉は年を重ねるほどに一層重みをもって心に響いてくる。

◎ 照井義道さん（S35年経済卒）

浅草の某郵便局の局長を定年退職した後も校友会は幅広く活動されていたが、今年の春に体調を崩されて今も本調子ではないご様子。一日も早いご本復を祈るばかりだ。

〔追悼文〕

故 立川久夫さんを偲ぶ

副支部長 米津 照男

人は、人生を何時振り返るのだろうか。気が付かないうちに逝ってしまうのか。今年7月7日七夕の夜に「立川さんが5日に亡くなったそうです」と、葛飾の校友志賀保彦さんからのメールがありました。立川久夫さんは江東区の会員です。以前より持病があるとは聞いていたものの、あまりにも突然のことで、大きな驚きでした。6月25日の支部総会には元気にご出席でしたから。享年71歳。



8日、四ツ谷駅近くの菩提寺「心法寺」で行われた葬儀には、城東支部の校友7名が参列し、喪主であるお姉様の紀久子さんとともに、清深なお経の中お見送りました。

立川さんは山梨県生まれ。東洋大学法科大学院に入学され、将来は弁護士にと勉学に励まれたそうです。前職は地方議員に関わる公務員。法律案の作成や世話役などの職務にあり、国会の委員会で答弁したこともあったそうです。

両国寄席の時蔵独演会、深川資料館での花緑人情話にもよく通いました。落語の後はお決まりの一杯。江東区会員の山崎雅子さん、志賀さんらと一緒に、カラオケも楽しみながら、彼お得意の政治談議などに耳を傾けたものです。若い頃はアイスホッケーの選手として活躍。野球観戦や音楽鑑賞など、多趣味な方でした。

コロナ禍での日々は、午前中は好きな読書で過ごし、午後は散歩がてらの買い物に出かけるなど、穏やかな佇まいのご様子でした。

立川さんは物知りの文化人で、これから城東支部を支えて頂ける逸材でもありました。その紳士的で温厚な優しい人柄を、今もふと懐かしく思い出します。立川さんを偲び、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

編集後記

●今号から編集に、江東区在住の戸荻康子さんが参加してくださいました。校友会活動には、まだなじみは薄いですが、長く広報、編集関係に携わっていらした逸材。観劇を趣味とされて、これと思えば海外にまで出かけてしまうフットワークの軽さは、定年退職されて、ますます旺盛になることでしょう。その分話題も豊富です。新しいお仲間として城東の大きな戦力になると期待されます。皆様、どうぞよろしく。

●コロナウイルス感染者の増減も一進一退の1年が過ぎようとしています。今年は緊急事態宣言こそ発出されて

いませんが、11月の現時点では第8波到来が予想され、「年忘れかつしか白山会」などの恒例の集まりも開催が見送られ、顔を合わせられないもどかしさが募ります。

●そのような中、会員個人の皆様からの寄稿は顔の見える光にも相当します。この度ご寄稿くださった皆様ありがとうございました。

●ご紹介にあずかりました編集新人の戸荻(とがり)と申します。校友会城東支部の活動を記録に残せるよう微力ながらお手伝いさせていただきます。

(沖山 英子 戸荻 康子)

東洋大学校友会
城東支部事務局

〒131-0041 東京都墨田区八広 6-20-13

TEL/FAX 03-3612-6978 mail: e.okiyama09@gmail.com

※ 城東支部ブログ更新中 📌

